

## 平成 12 年度事業報告書

### [ 1 ] 政策研究

昨年度に引き続き研修セミナー参加者を中心に研究会を催した。

月 / 日	講師名	役 職	テ ー マ
13.2.23	三 屋 裕 子	筑波スポーツ科学研究所 副所長	私のスポーツ観

### [ 2 ] 研修セミナー（フォーラム ' 80 ）

官庁、政府系機関、民間企業を中心に各団体から派遣される中堅幹部職員を対象に  
として、内外の学者、専門家等を講師に招聘し、我が国経済社会における次代の後継  
者を育成することを目的とした研修セミナー（フォーラム ' 80 ）を実施した。

#### （ 1 ） 開講状況（平成 1 1 年度からの継続を含む）

第 4 2 期       ： 開講日 ..... 平成 1 1 年 5 月 1 1 日  
 （ 3 5 名）       終講日 ..... 平成 1 2 年 4 月 1 1 日  
 修了後、第 4 2 期生会を結成し、定例研究会その他自主活  
 動を行なっている。

第 4 3 期       ： 開講日 ..... 平成 1 1 年 1 2 月 9 日  
 （ 3 7 名）       終講日 ..... 平成 1 2 年 1 1 月 2 日  
 修了後、第 4 3 期生会を結成し、定例研究会その他自主活  
 動を行なっている。

第 4 4 期       ： 開講日 ..... 平成 1 2 年 5 月 1 6 日  
 （ 3 7 名）       現在受講中

第 4 5 期       ： 開講日 ..... 平成 1 2 年 1 2 月 7 日  
 （ 3 8 名）       現在受講中

#### （ 2 ） 講師・テーマ一覧（本年度実施分のみ掲載、役職は当時、敬称略）

##### < 第 4 2 期 >

月 / 日	講師名	役 職	テ ー マ
12. 4. 4	池 田 行 彦	衆議院 議員 自由民主党総務会長	21 世紀の日本
4.11	終 講 式		

<第43期>

月/日	講師名	役職	テーマ
12.4.6	秋野吉郎	日本電信電話(株) ネットワークサービスシステム研究所長	情報流通を支える次世代ネットワーク技術
4.13	恩田宗	アセアンセンター 事務総長	変わりゆくアジアと日本
4.20	松本健一	評論家	日本人の気概
4.27	尾村敬二	日本貿易振興会 アジア経済 研究所経済協力部部長	今後のインドネシア情勢
5.11	グレン・S・ フクシマ	A-S-A-D・リトル(ジャパン)(株) 代表取締役社長	日本はよみがえるか
5.18	久保田勇夫	国土庁 事務次官	これからの国土開発と首都機能移 転問題について
5.25	間瀬健一	(有)HMI 代表	末期がんからの帰還
6.1	森信茂樹	大阪大学 教授	地方分権と外形標準課税
6.8	粕谷一希	評論家	日本社会の混乱の性格について
6.15	黒川和美	法政大学 教授	マルチメディアとエコノミー
6.22	佐伯啓思	京都大学 教授	世界化時代における日本の自己認 識
6.29	セルゲイ・ブ ラギンスキー	横浜市立大学 助教授	プーチン新政権と今後のロシア
7.6	森政弘	自在研究所 代表	矛盾を超える - 「非」の論理 -
9.14	藤田祐幸	慶應義塾大学 助教授	エネルギー問題と原子力発電
9.21	浅井基文	明治学院大学 教授	日米安保と沖縄
9.28	山中晤郎	三菱電機(株) 先端技術総合研究所長	21世紀に向けての先端技術開発
10.5	矢野智雄	(社)総合研究フォーラム 常任理事	21世紀への課題 おさらいを兼ねてー
10.12	瀧口勝行	(株)サンシャインシティ 常務取締役	日本経済に未来はあるか
10.19	三和彦幸	朝日(監) 代表社員、公認会計士	会計基準にみるグローバルスタン ダード化
10.26	松井孝典	東京大学 教授	惑星科学の視点から見た地球の近 未来
11.2	終 講 式		

<第44期>

月/日	講師名	役職	テーマ
12.5.16	開講式		
5.23	須之部量三	(社)総合研究フォーラム 会長	混迷する世界と日本の課題
5.30	田中努	(株)三菱総合研究所 顧問	2000年、日本経済の展望
6.6	朱建栄	東洋学園大学 教授	中国の内政外交と今後の日中関係
6.13	恩田宗	アセアンセンター 事務総長	変わりゆく東南アジアと日本
6.20	渥美堅持	東京国際大学 教授	イスラーム文化 - 歴史、宗教、政治、社会 -
6.27	加地伸行	大阪大学 名誉教授	儒教と現代
7.4	都甲岳洋	前駐ロシア特命全権大使	プーチン新政権と今後の日中関係
9.12	藤田祐幸	慶應義塾大学 助教授	エネルギー問題と原子力発電
9.19	松本健一	評論家	日本人の"気概"
9.26	西岡力	現代コリア研究所 事務局長	動き出すか、朝鮮半島
10.3	尾村敬二	日本貿易振興会アジア経済研究所 経済協力研究部研究主幹	インドネシア情勢の展望
10.10	茅陽一	慶應義塾大学 教授	温暖化とその対策の現状
10.17	グレン・S・フクシマ	日本ケイデンスデザインシステムズ(株) 代表取締役社長	日本はよみがえれるか
10.24	西村博夫	スマートオンライン(株) 代表取締役社長	日本初の本格的 B2B サイト SMOL の事業展開
10.31	中野正和	(株)ビューテックラボ 代表取締役会長	インターネット時代のベンチャー企業の可能性
11.7	森政弘	東京工業大学名誉教授 自在研究所 社長	矛盾を超える - 「非」の論理 -
11.14	間瀬健一	(有)HMI 代表取締役社長	末期がんからの帰還
11.21	森信茂樹	大阪大学 教授	求められる大学改革
11.28	黒川和美	法政大学 教授	マルチメディアとエコノミー

月/日	講師名	役職	テーマ
12. 5	有馬龍夫	日本政府代表	ドイツを中心として見た欧州情勢 - 東西ドイツ統一 10年 -
12.12	佐瀬昌盛	拓殖大学 教授	国連憲章の問題点、国連憲章下の我が国の問題点
13. 1.16	谷公夫	(株) NTTドコモ 取締役経営企画部長	モバイルマルチメディア時代の展望
1.23	佐藤良二	(監) トーマツ 代表社員 公認会計士	国際会計基準への移行とその影響 - マーケット対応型の情報開示へ -
1.30	吉武博通	新日本製鐵 (株) 光製鉄所 総務部長	新日鐵の経営革新と今後の企業経営
2. 6	北村親一	(株) 博報堂 コーポレートコミュニケーション局長代理	企業の危機管理 - マスコミ対応を中心として -
2.13	佐竹誠	東京電力 (株) 企画部長	電気事業をめぐる課題
2.27	富田洋	人道目的の地雷除去支援の 会常任理事・事務局長	顔の見える国際貢献 - 復興目的の地雷除去支援活動を通じて -
3. 6	加納時男	参議院 議員	『経済人』から見た日本の政治～崖っぷち日本
3.13	安延申	スタンフォード日本センター 研究部門 所長	IT産業の将来の方向性

< 第 45 期 >

月/日	講師名	役職	テーマ
12. 12.7	開講式		
12.14	須之部量三	(社) 総合研究フォーラム 会長	混迷する世界と日本
01.1.18	渥美堅持	東京国際大学 教授	イスラーム文化 - 歴史、宗教、政治、社会 -
1.25	朱建栄	東洋学園大学 教授	中国の内政外交と今後の日中関係
2. 1	田中努	中央大学 教授	2001 年日本経済展望
2. 8	加地伸行	大阪大学 名誉教授	儒教と現代
2.15	西岡力	現代コリア 事務局長	動き出すか、朝鮮半島
3. 1	小寺次郎	外務省 欧亜局 ロシア課長	ロシアの現状と今後の日口関係の展望
3. 8	森政弘	東京工業大学 名誉教授 自在研究所 社長	矛盾を超える - 「非」の論理 -

月/日	講師名	役職	テーマ
3.15	藤田 祐 幸	慶應義塾大学 助教授	エネルギー問題と原子力発電
3.22	佐々木 秀 幸	早稲田大学 教授 日本陸上競技連盟専務理事	スポーツ界に見るアマチュアリズム - 企業文化とスポーツ -

### (3) 見学会・合宿・その他活動

	期 日	平成 12 年 7 月 13 日 (木)
	見 学 先	日本航空(株)整備工場、麒麟ビール(株)横浜工場
	期 日	平成 12 年 9 月 8 日 (金) ~ 9 日 (土) 平成 12 年 7 月 13 日 (木)
	見 学 先	自衛隊総合火力演習
	期 日	平成 12 年 9 月 20 日 (水)
	見 学 先	首相官邸
	期 日	平成 12 年 11 月 17 日 (金) ~ 18 日 (土)
	見 学 先	札幌市 (北海道地域経済の現状と航空業界の規制緩和の実態)
	期 日	平成 12 年 12 月 8 日 (金) ~ 9 日 (土)
	見 学 先	東京電力(株)柏崎刈羽原子力発電所
	期 日	平成 13 年 2 月 2 日 (金) ~ 3 日 (土)
	見 学 先	日本道路公団上信越自動車道五里ヶ峯トンネル東工事

### [3] 国際交流

平成 12 年 8 月に第 21 回海外研修団を組織し、総勢 27 名で韓国並びにアセアン 3 カ国 (インドネシア、ヴェトナム、タイ) を訪問した。概要は次の通り。

期 間	平成 12 年 8 月 3 日 ~ 8 月 13 日	
団 長	恩 田 宗 氏	アセアンセンター事務総長
グループリーダー	片 岡 慎 一 氏	日本道路公団 < 43 期生 >
同 上	上 條 誠 氏	三井物産 (株) < 43 期生 >
同 上	関 井 悟 氏	東日本電信電話 (株) < 44 期生 >
同 上	竹 澤 稔 氏	セコム (株) < 44 期生 >
主な訪問地	韓国 (ソウル)、インドネシア (ジャカルタ)、ヴェトナム (ホーチミン)、タイ (バンコク)	

訪問地別主要行事（肩書などは当時）	
東 京	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 恩田宗団長講演</li> </ul>
ソ ウ ル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道上尚史参事官、高安雄一、小坂節雄一等書記官による講演</li> <li>・ 岡田治郎ソウルジャパンクラブ会長（三井物産）、高杉暢也韓国富士ゼロックス会長講演</li> <li>・ 韓国ヤクルト天安工場、堤岩里教会訪問、慶福宮、博物館見学</li> <li>・ 寺田輝介大使他大使館員、駐在員との懇談</li> </ul>
ジャカルタ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ M・サドリ教授講演</li> <li>・ 堂道秀明公使、嶋崎陽一郎参事官講演</li> <li>・ 宇野宏志ジャカルタジャパンクラブ会長（三井物産）他講演</li> <li>・ サンヨージャヤコンポーネンツ訪問、中央博物館、独立記念塔、スダクラパ港見学</li> <li>・ 川上隆朗大使他大使館員、駐在員との懇談</li> </ul>
ホーチミン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 林渉総領事講演</li> <li>・ 川嶋修三富士通CPV社長講演</li> <li>・ 国営工場フォックロン紡績会社訪問、統一会堂見学</li> <li>・ 林総領事他総領事館員、駐在員との懇談</li> </ul>
バンコク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スパチャイ副首相表敬訪問</li> <li>・ 青木伸也一等書記官講演</li> <li>・ 館逸志NESDBエコノミスト、シントンタイ外務省日本担当官講演</li> <li>・ 富士通タイランド社訪問、戦争博物館他見学</li> <li>・ 赤尾信敏大使他大使館員、駐在員との懇談</li> </ul>